

# 中国が北朝鮮を仮想敵国に指定

漢和防務評論 20170404(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

北朝鮮への武力制裁も現実味を帯びてきましたが、有りうると主張する人と有り得ないと主張する人の両極端に分かれています。それぞれ尤もらしい理由を挙げていますが、中国の了解なしでは、後の結果を考えると無理だと思われます。その中国ですが、制裁を強化するフリをして抜け道は塞いでいません。中朝貿易で潤っている地域があるからでしょうか。中国軍も内部では仮想敵国として指定し、戦力配備もそれなりに変更しているようですが、北朝鮮が中国の足元を見ている段階では効果のほどは疑問です。

KDR 香港平可夫特電：

KDR は、最近中国軍が内部で北朝鮮を仮想敵国に指定するとともに、部隊配備を大きく変更したことを発見した。中国軍は、内部資料で直接 C 国（北朝鮮）を指し、核兵器、弾道ミサイルを開発し、依然中国が反対する核ミサイル開発を継続し、同時並行して経済発展政策を推進中であると記述している。

以前から中国軍が北朝鮮の核武装に反対してきた主旨は、平壤が核武装すれば一旦米韓連合軍の攻撃を受けた場合、巻き添えになるからであった。したがって今まで中国は朝鮮人民軍を直接作戦対象とは見ていなかった。これは KDR が最近わかったことである。しかし、最近の中国軍の文献では、北朝鮮を名指しし、朝鮮は中国を核で拉致しようとしており、北朝鮮ミサイルは中国東北部、華北地区にとって脅威であると述べている。これは、中国が北朝鮮の弾道ミサイルを直接の脅威と見るようになったことを示している。

このため、中国軍は、部隊配備を変更した。特に早期警戒部隊及び空軍部隊である。中国は、東北部の朝鮮半島に対する一線配備に早期警戒気球を配備する計画がある。このほか航空兵第 21 師団の戦力を高めた。延吉及び牡丹江飛行場に J-10 戦闘機が出現した。これは一時的展開なのか常駐なのか？注目すべきである。衛星写真からは、J-10A と B の区別はつかない。21 師団の J-10 はどちらなのか？最北部に配備されたロシア対処の J-10 とは違うようだ。KDR が 2016 年 12 月 21 日 CCTV で放映された J-10B 装備部隊に関連する画面を詳細に対比すると延吉飛行場の地形に似ていた。北部戦区で J-10A を装備する部隊は赤峰基地の航空兵第 1 師団である。

延吉には J-10B が配備されているのか？この飛行場は、2016 年に 20 個の連体型航空機格納庫が建設され、2 つのグループ（群）に分けられていた。通常は、J-10 の 1 個連隊は 28 機で編成される。もしそうならば、中国の北朝鮮への警戒心が極めて高まったことを示している。航空兵第 21 師団は、第 3 世代戦闘機へ

の換装が最も遅い部隊である。ホロンバイル飛行場に出現した **H-6** 爆撃機は、必要時、北朝鮮核施設を攻撃する作戦と関連があるのか？しかし中国がこれらの核施設を攻撃することは自殺に等しい。中朝国境に近すぎるからである。笑止千万なのは、通化の第二砲兵基地が **DF-31** に換装されたばかりなのに、なんと陣地は、北朝鮮国境から **70KM** 以内にある。韓国が **THAAD** を配備したため、中国はソウルを軍事的に威嚇し始めた。中国は、2つの朝鮮を同時に敵にする積もりなのであるだろうか？

以上